

1 学校教育目標

「夢実現 ～百見は一験に如かず～」

ア 教育方針

- (ア) 県教育委員会関係課から出されている「平成30年度教育指導の重点及び取組の方向」を基本に、本校「五綱領」を踏まえ、社会に貢献する生徒の育成をめざす。
 (イ) チーム学校の一員として、生徒・職員・家庭・地域一体となって、活気ある学校づくりを目指す。

イ 教育目標

- (ア) 健全な心身の育成
 ①学校の教育活動全体を通して、人権尊重、道徳を含む生徒の心身の向上に努める。
 ②体験学習・ボランティア活動を通じて、人を思いやる心(怒の心)や、奉仕する心を育てる。
 ③部活動を活発化させ、行動力、協調性、社会性を磨く。
 ④教育環境を整備し、生徒の健康・安全教育の徹底を図る。
- (イ) 学力向上と進路指導の充実
 ①一人ひとりの学力や個性に応じた「参加させる授業」を工夫し、自ら学び考える力を育成する。
 ②面談やLHR等を通じて、将来の進路目標を早期に設定できるように援助し、キャリア教育の視点から自己実現に取り組ませる。
- (ウ) 地域社会と連携した学校づくり
 ①一人ひとりの活動する機会を工夫する。
 ②地域社会との連携を通して、あいさつやマナー等基本的な生活習慣を身につけさせる。
 ③地域と連携した教育実践を更にすすめる。

2 本年度の重点目標

ア 基本的な生活習慣の確立

- (ア) 言葉遣い、あいさつを身につける。
 (イ) 時間を厳守し、遅刻や欠席のない生活習慣や身だしなみを確立する。
 (ウ) 交通マナーやSNS等、社会のルールに対する規範意識を高めさせ、地域を支える人材を育てる。
 (エ) クラスや地域に貢献し、甲佐高校生として自覚と誇りを育てる。

イ 教師の授業力向上、個に応じた学習指導と進路指導

- (ア) 「授業力」の向上
 生徒が主体となる授業の工夫を重ねるための授業研究、公開授業を活用する。
 (イ) 個別の添削、面接指導等により個々の能力に応じたきめ細かな指導を行う。
 (ウ) 夢実現のため図書館や進路指導部等の活用をすすめる。
 (エ) 日々の教育活動を通じて生徒理解に努め、共通理解を図る。

ウ 特別活動(生徒会・部活動等)を生かした自主性、創造性、奉仕の精神などの育成

- (ア) 部活動や委員会活動等への積極的に参加できるよう運営や時間を工夫し、教育活動全般を通じて人権教育、道徳教育を行う。
 (イ) 学校行事、ボランティア活動などを通じて、自ら考え、自ら行動できる生徒の育成を図る。

エ 地域と連携した教育活動

- (ア) 広報活動や学校評議員制度等を通じて、地域社会に対し本校教育への理解と協力を深める。
 (イ) 保護者との面談や家庭訪問を計画的に行い、家庭と学校の連携を密にするとともに地域社会、特に小・中学校との連携を深める。

オ 言語環境の整備

- (ア) 学校生活全体を通じて、言語に関する理解や関心を深め、言語環境を整えるとともに総合的な言語能力(読む・書く・聞く・話す)の習得並びに実践する態度を養う。
 (イ) 図書館の充実を図る。

カ 教育相談体制の充実

- (ア) 全ての教育活動を通じて、生徒理解と実態把握に努め、心の教育の充実を図る。
 (イ) 各校務分掌や教職員間の情報共有を図り、いじめの早期発見や対応、特別な配慮を要する生徒への対応等、教育相談体制を更に充実させる。

キ 防災教育の徹底

- (ア) 熊本地震を教訓とした防災教育の充実を図る。
 (イ) 地域社会、関係機関等との連携を更に図り、風水害等の災害に適切に対応する防災体制を強化する。

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	活気ある学校	体験学習・ボランティア活動の充実	自らの身体で体験し、奉仕や勤労、命を大切に、人権を尊重する心を育てる	<ul style="list-style-type: none"> 校外学習（年間20日）の実施 奉仕や勤労意欲を正に評価する 多くのボランティア活動に参加し奉仕の心と思いやりの意識を高める 	A	長期の校外学習では地元企業の協力があり、充実した学習を行うことができた。また、ボランティア活動にも参加でき、地域の方々と交流を深めながら地域への貢献度を高めることができた。
		学校行事等で育む自ら考え行動する生徒	学校行事等に自ら積極的・創造的に参加する	<ul style="list-style-type: none"> 生徒中心の創造的な企画と運営 役割分担と協力体制の確認 生徒自身が気づき行動できるための支援 	A	体育大会、青垣祭では生徒会が中心となり生徒のための行事であった。青垣祭では甲佐町とコラボしたトーク・ホークダンスは地域住民との絆を深めることができた。
		部活動の活性化	社会と関わり、年間を通して活発に活動する部活動の育成	<ul style="list-style-type: none"> 年間計画を立て、生徒が安全で楽しく取り組める運営 行動力、協調性、社会性を学ばせ人格形成の場とする 	B	女子野球部、女子バレー部を創設し、女子生徒の活躍の場を増やすことができた。課題は両部とも練習環境の充実が課題である。
	信頼される学校	育友会、地域、同窓会との連携・協力	100周年に向け、関係機関との信頼と連携を強める	<ul style="list-style-type: none"> 学校が中心となり、同窓会、育友会の意見を尊重集約する 	A	100周年記念事業拡大実行委員会を開催し、募金趣意書を発送した。
		保護者・地域等との連携と効果的説明・広報	100周年に向け、活気ある学校づくりを目指した学校教育の効果的な情報提供と広報を推進受検者60人以上を目標とする	<ul style="list-style-type: none"> 甲佐高だより、紹介DVD、学校HP、案内パンフ、育友会報 広告等による積極的な発信を毎月実施 地域の行事等に積極的に参加したり、ボランティア活動や校外実習等で地域の方々と交流を深め、甲佐高校のイメージを高める 	B	<ul style="list-style-type: none"> 甲佐高だよりを毎月発行して町内の回覧に載せ近隣の中学校に配布した。 学校HPでは毎日、学校での出来事をアップすることができた。 校外学習等では町の活性化事業等に参加し、地域との交流と地元探求ができた。
	学校改革	緊急時対応との充実	緊急時対応マニュアルの定着を図り、高い防災意識を育てる	<ul style="list-style-type: none"> 緊急時対応マニュアルに沿った訓練等の実施 安心メールへの登録を100%にする 	B	緊急時対応マニュアルを職員室等に配置した。安心メールの保護者登録は86%であった。
		職員の連携・特性の発揮	働き方改革の推進を踏まえた校務運営の改善生徒との関わりを増やし、生徒が安心・安全に学校生活を送る環境を整える	<ul style="list-style-type: none"> 校務分掌内の校務のスマート化を行い、無駄な仕事を減らす あらゆる学校活動の中で生徒と職員が夢を語り合う 	B	校務分掌内のスマート化はできた分掌部もあった。全体的にはあまり進まなかったが、生徒と夢を語り合う場面は増えた。
		会議等の効率化と研修の深化	連絡体制の簡素化と見通しを持った準備・運営	<ul style="list-style-type: none"> 朝会を週2回とし、週1回の定時退庁日を設ける 情報は自ら積極的に収集 会議の効率化を図り、職員の役割分担を明確にする 	B	週1日の定時退勤日を各人で決め、取り組んでもらったが、完全定着までは至っていない。
	学力向上	授業力の向上	分かる授業の工夫と研究授業	研究授業の積極的な実施 公開授業の活発化 ICT機器の利活用授業のUD化	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業への参加率向上（2回以上参観が70%）、教科の枠を超えた横断的な合評会の開催 公開授業週間の設定、積極的参観、地域・関係各所への案内 	A
個に応じた「分かる」学習指導		授業の理解と個別指導の充実	授業理解が十分達成できている生徒と概ね達成できている生徒を計80%以上 学習指導と評価が一貫した授業展開	<ul style="list-style-type: none"> 指導法、生徒理解情報の共有 身近な題材、体験的活動的な学習 観点別評価の更なる充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> 巡回相談等を活用し、指導法の向上に努めた。 複数の教科で校外体験学習を実施した。 評価方法については検討の余地が残った。

	学習に対する意欲・姿勢	自ら学ぶ意欲	学習に対して、自ら意欲的に取り組んだ体験を持つ生徒を100%	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育の視点に立った、個々に応じた丁寧な授業づくり ・基礎基本の徹底、課題学習 ・将来（進路）につなげる学習指導 ・あゆみ学舎（公営塾）の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考査前学習会では個別の学習指導を行った。 ・ 学習習慣や家庭学習の定着に向けての取組は不十分だった。 ・ あゆみ学舎と連携し、ゼミ学習や情報共有を行った。
キャリア教育・進路指導	自らの可能性に挑戦し、進路目標の実現を目指す	自己実現に繋がる早期の目標設定	進路目標の早期設定率100%を目指す（3年生は100%、1、2年生は2月までに75%以上）	<ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア教育の視点に立った進路学習、進路ガイダンスの実施 ・ 二者面談、三者面談の実施 ・ タイムリーな進路情報の提供 ・ あゆみ学舎（公営塾）の活用 	B	年度当初に計画した進路関係の取り組みは全て実施することができ、多くの生徒の進路意識の高揚や進路学習の充実に繋がった。ただ、3年生の一部の生徒に、進路先を決めるという意識が希薄で最後まで意欲的な態度が見られなかった。
		進路目標実現のための努力	進路目標の達成率100% 受験者の全員合格	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進路ガイダンス、就業体験等の活用 ・ 積極的な進路情報の収集、提供 ・ 進路指導部の機能強化（進路部・学年・各教科の連携、進路資料活用） ・ 個別指導学習会の実施 	A	3年生職員や各教科担当者、公営塾スタッフ等との連携により、個別学習指導や面接指導等が効果を上げ、甲佐町役場の内定をはじめとして、就職・進学希望者全員の進路先を決定することができた。
生徒指導	個を尊重した生徒指導	基本的な生活習慣と言語環境の整備	規範意識の向上 基本的な生活習慣の習慣化 挨拶の励行	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共通理解に基づく全職員による生徒指導 ・ 日々の学校生活における規範意識 ・ 時間厳守 ・ 言葉遣いの指導 	C	年間を通して、遅刻が目立った。また、言葉遣いに関する特別指導が3件発生した。基本的な生活習慣の確立による落ち着いた学校生活が今後の課題となった。
	安心・安全	甲佐高校生としての自信と誇り	生徒の活躍の場を広げ、自尊感情を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動・生徒会活動の活性化 ・ 正門一礼の習慣化 	B	正門一礼は、習慣化したと見られる。部活動の活性化が今後の課題としてあげられる。
		移动通信端末の危険回避と適切な利用	ネットリテラシーを身につける。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒会を中心として啓発活動とその取組の促進 ・ 情報モラル講演会の実施 	B	情報モラル講演会や生徒指導部からの学年指導等は実施できた。一部の生徒のSNSの利用における問題事案が後を絶たず課題としてあげられる。
		交通安全教育の徹底	交通マナーを遵守し、自他の生命を守る	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自転車通学生への定期的な指導の実施 ・ 原付通学生への定期的な指導の実施 	C	大きな事故はなかったものの、自転車通学生・原付通学生への指導は定期的な実施に至らなかったため、来年度は年間で計画を立てたい。
人権教育の推進	人権尊重の精神	人権に関する理解の深化および豊かな人権感覚の育成	人権課題解決に向けた学習の実施と差別をなくそうとする態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人権教育の積極的推進(全領域) ・ 人権教育講演会の実施 ・ 人権が尊重される環境づくり ・ 家庭訪問を基軸にした背景理解 ・ 人権感覚を高める校内研修の充実 	B	人権教育講演会を実施した。担任をはじめ様々な立場の職員で家庭訪問を行い、生徒および背景の理解に努めた。人権感覚を高めるための校内研修を複数回行った。
		研修の充実と推進体制の強化	計画的な校内研修の実施 年間、最低1回の校外研修を含めた計画的な研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人権教育推進委員会の活性化 ・ 校外研修の案内と参加促進 ・ 実践力向上に向けた意識啓発 	B	人権教育推進委員会は活発に行った。校外研修も全職員が参加した。研修で各人が実践を出し合うことで、実践力向上につながった。

	命を大切に する心を 育む	自他の命を大切 にする心の育成	「自他の命を大切に する心」を育む取組の実 施 教育相談体制の充実	・命の教育、心の教育の充 実 ・職員会議・研修等による 共通理解と生命尊重に立 った教育実践 ・相談窓口の周知 ・SC・SSW等の専門機 関との連携	B	命を大切にする講演会を 行った。相談窓口の周知 を行った。また、SC・ SSW等の専門機関との 連携も十分に図ることが できた。
いじ め防 止等	いじめ防 止と早期 の発見	「いじめ防止基 本方針」及び「い じめを許さない 」行動指標の定 着	生徒・職員・保護者の 連携 「いじめを許さない」 行動指標の点検(アン ケート等)	・職員研修等の充実 ・「心のきずなを深める月 間」に各クラスで学習を 実施 ・定期的なアンケートの実 施	B	「心のきずなを深める月 間」に各クラスで「言葉 遣いについて考える」学 習を実施した。定期的に アンケートを実施した。
		いじめ未然防止 のための組織的 な取組	生徒・職員・保護者の 意識向上によるいじめ 未然防止早期発見、早 期対応	・生徒会による働きかけ ・いじめ防止対策委員会活 動の充実(定例開催、随 時開催) ・職員会議・学年会等での 共通理解と検証	B	「心のきずなを深める月 間」に言葉遣いについて 生徒会から呼びかけを行 った。いじめ防止対策委 員会を定例開催した。
特別 支援 教育	個々への 適切な支 援と、ユニ バーサル デザインの 授業づく り	特別な支援を必要 とする生徒の 把握・対応 ユニバーサルデ ザインの授業づく り	個別の支援計画、指導 計画の活用 生徒、保護者、専門機 関との連携 職員の授業力向上	・支援計画・指導計画の定 期的な評価、検証(校内 委員会、職員研修での共 有) ・各種機関との情報交換、 巡回相談の活用 ・校内研修の実施	B	・支援計画・指導計画を 校内委員会、職員研修で 共有できた。 ・ハローワーク、ジョブ カフェ等と情報交換し、 巡回相談(2回)を活用 した。 ・校内研修は2回実施。
保健 環境	保健管理 意識の高 揚	健康に対する自 己管理能力を高 める	基本的な生活習慣の確 立	・ほけん便りによる健康意 識の向上 ・保健室来室時の個別相談 実施	B	保健委員が輪番でほけん だよりを作成している。 生徒が興味を持つほけん だよりを作成していきたい。 個別相談は継続して 実施していきたい。
	環境整備	安全管理と掃除	安全点検の実施 掃除の徹底	・毎月校内安全点検を実施 する ・美化週間の実施 ・環境ISOの周知徹底	B	アンケートを実施し、美 化意識の向上を図った。 安全点検は定期的に実施 できなかった。
地域 連携 (コミュ ニティ スクール)	地域防災 および防 災教育の 確立	生徒・職員の防 災に関する意識 の変容	防災型学校運営協議会 を通して、地域防災に ついての理解を深める	・学校運営協議会の実施(年 3回) ・地域と連携した防災訓練 の実施 ・町の防災訓練への参加 ・災害発生時の役割の確認	B	校内での計画はすべて実 施したが、町の防災訓練 には日程等の都合で参加 できなかった。

4 学校関係者評価

(1) 成果

- ・長期の校外学習では、地元企業の協力があり、充実した学習を行うことができた。また、ボランティア活動にも参加でき、地域の方々と交流を深めながら地域への貢献度を高めることができた。
- ・今年度も町や商工会等と協力して校外での販売実習等が充実し、学校独自の商品「ニラみそあられ」に続き、「ニラえびあられ」を開発し、熊本県が推進する「くまもとのあか」にも登録された。
- ・公営塾(あゆみ学舎)主導で青垣祭に行われたトークフォークダンスは、保護者、地域住民、生徒の三者の交流は勿論、甲佐高校を地域の方々に知ってもらえるいい機会になった。
- ・進路指導の取組で保護者(育友会役員)が面接官として面接指導を行ったが大変良かった。今後も継続して欲しい。
- ・甲佐中学校の3年生全員の甲佐高校体験入学を実施することができた。
- ・今年度、数年ぶりに地元甲佐町役場に1名合格した。公営塾での取組も合格に繋がった。2年生も役場を目指している生徒が2月から公営塾に入塾した。
- ・甲佐高校生はボランティアを一生懸命頑張っている。避難所訪問でNHKのニュースに4回出たが、高校名が出なかったため、PRの部分では効果が上がらなかったように思う。
- ・小学校との交流では、昨年度から町の依頼で野球部が小学生対象に指導を行っている。また、ビジネス情報科では、缶バッジの作成などで保育園児と交流を図ることができた。
- ・PRが大事。今年度から実施していることが多く、学校の魅力発信に努めていることが素晴らしい。

(2) 提案他

- ・同窓会では、今年度は女子野球の全国大会出場や海外研修への費用の援助をしている。その報告をお願いしたい。
- ・地域との連携では、中学校だけではなく、小学校生や保育園児との連携もお願いしたい。
- ・入学者を増やすためにも進路先(就職先)をもっとアピールして欲しい。特に公務員(地元の甲佐町役場)に合格したことは周囲は知らないのでは是非お願いしたい。
- ・部活動の活性化が必要ではないか。特に女子野球部員が増えるためには寮の設置が必要であるが資金面で非常に厳しい状態にある。今年度も行っている甲佐町の「空き屋」の利用を進めて欲しい。甲佐町との協力が必要。
- ・来年7月にマレーシアに1名ホームステイに行くことになっている。帰国後は全校生徒に向けて英語でスピーチさせたらどうか。一つでも子ども達の励みになれば。ライオンズクラブの活動を利用して欲しい。
- ・公営塾はとていい。役場に合格したのは公営塾の成果。来年度も続けば強みになる。
- ・役場に合格した生徒は野球部でも表彰されたので、文武両道で頑張った。学校のストロングポイントとして、県全体にアピールすると良い。兄弟で行きたくなるような学校作り大事である。
- ・育友会からの意見では、親が参加しやすい学校づくりをして欲しい。
- ・卒業生の離職率を踏まえた進路指導を行って欲しい。就職率100%も大事だが学校は離職率も把握、検証し、その生徒に適した進路を勧めて貰いたい。
- ・甲佐中学3年の体験入学を11月に行ったが、この時期はもうある程度進路を決めているので、来年度は1、2年の体験入学を実施したらどうだろうか。
- ・中学校だけではなく、小学校への取組を。例えば甲佐高生が小学生に勉強を教えるなど、小さいうちから甲佐高の良さを植え付けていくと違っていいのではないかと。中学生が小学校であいさつ運動をしていると小学生は喜ぶので高校生からのあいさつ運動もやってもいいのではないかと。
- ・地域の人や県内の人には甲佐高の魅力が伝わっていない。校長先生は回っていただいているが、すべての生徒保護者に会えるわけではないので、地道にやれることをやっていくしかない。町も一緒になって考えていきたい。
- ・中学生に甲佐高校のイメージなどのアンケートを採るのはどうか。そのアンケートをもとに、公営塾や甲佐高校の特徴をPRしたらどうか。

5 総合評価

1 本校の教育方針と教育目標 「夢実現 ～百見は一験に如かず～」

(1) 教育方針

- ・社会に貢献する生徒の育成を目指し、様々な場面で町や地元企業等との連携のなかで実践的な教育ができた。
- ・職員、生徒、家庭、地域一体となる取組を体育大会や青垣祭、地域合同防災訓練等の学校行事で実践できた。

(2) 教育目標

ア 健全な心身の育成

- ・校外での学習や販売会への参加など、地域と連携した活動の機会が増えた。今年度から実施した長期職場実習は健全な心身の育成には大きく貢献できた取組になった。
- ・人権教育講演会等の取組により、人権を尊重する心と命の尊さを育むことができた。
- ・女子生徒が活動できる部である女子バレーボールが発足し、部顧問会での審議を経て部として活動できるようになった。

イ 学力向上と進路指導の充実

- ・公開授業週間を設定し、地域・近隣中学校からの授業参観があった。
- ・公営塾と協力し、進路指導や学力向上、コミュニケーション能力の向上等に取り組めた。
- ・全学年を対象に個別の学習会を実施し、発展的な学習にも取り組んだ。
- ・特性のある生徒について、合理的配慮協力員や特別支援教育コーディネーターの巡回相談を積極的に利用した。
- ・障がい者雇用制度を利用し、進路決定することができた。

ウ 地域社会の期待に応える学校づくり

- ・甲佐町からのボランティア協力依頼は積極的に協力することができた。
- ・地域の行事参加により様々な学びができた。

2 本年度の重点実践項目

(1) 基本的な生活習慣の確立

- ・正門一礼は習慣化してきた。
- ・毎日の登校指導は実施したが年間を通じて遅刻が目立った。今後はより具体的な取組を行う。

(2) 教師の授業力向上、個に応じた学習指導と進路指導

- ・公開授業2回以上の参観率は62%にとどまったが校外研修や公開授業への参加は増加した。
- ・個別の添削、面接指導等により個々の能力に応じた進路指導の結果、生徒全員が12月中に進路を決定した。
- ・学習習慣や家庭学習の定着に向けての取組は不十分だった。
- ・あゆみ学舎と連携し、ゼミ学習や情報共有を行い連携も深まっている。

(3) 特別活動(生徒会・部活動等)を生かした自主性、創造性、奉仕の精神などの育成

- ・生徒会を中心に甲佐中や白旗小と連携した活動を行った。地域とのつながりを大切に、社会から必要とされる存在を目指して今後も社会奉仕活動に取り組みたい。
- ・学校行事やボランティア活動の体験により、自ら考え行動できるようになってきた。

(4) 地域と連携した教育活動

- ・青垣祭では、あゆみ学者(甲佐町教育委員会)の主導でトークフォークダンスを行った。
- ・毎月、甲佐高だよりを発行し、近隣中学校に配付した。また、甲佐町の回覧を利用した広報活動、育友会の広報や学校評議員会等での発信により甲佐高校に対する理解を高める事ができた。
- ・町内の保育園の園児を対象にビジネス情報科の1年生が缶バッジ作成を指導した。園からもその保護者からも好評であった。
- ・甲佐町の「こうさてん」活動で古民家の再生事業等に参加し、甲佐町の歴史を知ることができた。
- ・白旗小と協力し、白旗仮設住宅での「餅つき」ボランティアを行った。

(5) 言語環境の整備

- ・今年度は特に言葉を大切にすることを繰り返し伝え指導したが、言葉遣いに関する課題が多かった。今後も粘り強く指導を続ける。また、総合的な言語力（読む・書く・聞く・話す）の習慣並びに実践する態度を養いたい。

(6) 教育相談体制の充実

- ・学期に1回の生徒理解と実態把握のために職員研修を開き、共通理解を図った。
- ・心の教育として、外部講師を招き、「命の大切さ」に関しての講演を開催した。
- ・面談週間を設定し、担任以外の職員との面談を1、2年全員に行った。日頃の様子や悩み等が聞け、生徒理解の良い機会となった。次年度も続けていきたい。
- ・スクールカウンセラーとの面談を積極的に取り入れ、日頃の悩みだけではなく、自己肯定感を高める面談を行うことができた。

(7) 防災教育の徹底

- ・本年度も防災型コミュニティスクールとして本校で地域合同防災訓練を実施した。昨年以上に住民の参加が多く、年ごとに地域との一体感が深まっている。
- ・学校全体での防災教育は実施できたが個人への防災教育が十分ではなかった。

3 自己評価総括表

本年度から「地域連携(コミュニティ・スクール)」を自己評価に加えている。防災型コミュニティ・スクールへの取り組みは2年目になるが地域との連携は防災だけで言えばスムーズに流れている。地域住民との防災訓練は1年目から実施されており、甲佐町や消防、警察の協力も勿論あるので非常によい環境ができています。この地域や行政との良好な関係を更に発展させ総合型コミュニティ・スクールに移行できればと考える。

「特別支援教育」では、学校全体で取り組む意識を高め、職員の指導力向上並びに学習環境の整備が必要である。毎学期、全職員で生徒理解研修を行い、生徒一人一人に対して情報を共有し、担任、学年だけではなく学校全体での指導を心掛けた。

「学校改革」では、昨年度に引き続き職員朝会を週2回としている。ゆうネットを活用し、口頭での連絡時間を削減するように行っていたが、ゆうネットでは連絡事項が徹底できないし、職員間の共通理解が薄れるとのことで朝会資料が復活した。ペーパーレスからは逆行しているが裏面利用を行っているので大きな問題とはなっていない。

今年度は、入学者増も目指し、本校の広報活動に力を入れた。毎月、「甲佐高だより」「校長室だより」を発行し、近隣中学校はもとより熊本市内の中学校まで配付することができた。昨年度から行っている町内(横田地区)全戸配付も継続している。育友会と連携し広報紙「きんもくせい」も甲佐町で回覧ができた。また、学校ホームページに関しては、学校内の行事、話題を中心に毎日更新を目標に取り組んだ。お陰で本校ホームページの閲覧者数が倍増している。しかし、入学者増の目標達成には至っておらず、今年度の取組をしっかりと検証し、来年度の様々な取組へとつなげていきたい。そして、今後も甲佐高校の在りのままの姿と活動を多くの人に知ってもらえるようにアピールしていきたい。

6 次年度への課題・改善方策

甲佐町の公営塾との連携、女子硬式野球部、女子バレーボール部の創部、ビジネス情報科の長期職場実習での校外活動やボランティア活動等により町行政との連携は深まっている。今後もこれまで以上に連携を深め、よりよい教育活動になるよう積み重ねていきたい。具体的には、遠隔地からの入学生対応のための町内での寮や下宿等の設置を進めていきたい。また、熊本市内からの生徒勧誘の一つとして通学手段の改革を図りたい。

次に入学者増に繋がる活動については、これまで以上に広報活動に力を入れたい。「チーム甲佐高校」としての意識を高め、職員一人一人が積極的に取り組める組織環境を作る。

新学習指導要領の高等学校版が公表され、今後は授業の在り方そのものが変化していく。「生徒の主体的学び」を常に意識しながら、現学習指導要領の踏襲をしていく必要がある。

2020年に迎える創立100周年に向けて、甲佐高校生として自覚と誇りを育てるために、次年度は、特に以下のことを意識して取り組む。

- ① 2019年度の学校行事は100周年プレ大会と位置づけ、生徒、職員一丸となって取り組み盛り上げる。
- ② 生徒募集については、在籍している生徒の満足度を高め、近隣中学校、地域との連携を深めることを両輪として、学校全体で魅力ある学校づくりに取り組む。
- ③ 研究授業、公開授業週間の実施については、効果的な時期や回数を検討し、担当教科やテーマを明確にする。また、年間シラバスの作成と授業評価を実施し、教員個人の指導力アップに繋げる。
- ④ 進路実現に繋がる基礎的学力向上への取組を行う。年間を通じて、個別学習会や公営塾(あゆみ学舎)への参加を呼びかけ、参加数を増やす。
- ⑤ 進路決定率100%を継続すると共に、より高い進路目標や資格取得・検定に挑む体制を整える。
- ⑥ 「正門一礼」や日常の「気持ちの良い挨拶」を習慣化し、遅刻者数を減らす取組を行う。
- ⑦ 人間関係を良好に築く工夫を学年と連携し、対策を練る。また、SNSが原因のトラブルも多発しているため、再度、情報安全・情報モラル教育を徹底する。
- ⑧ 必要とされるコミュニケーション能力向上のため、特に適切な「言葉遣い」の徹底を図る。
- ⑨ 福祉教養コース・ビジネス情報科における地域連携の深化。